

流れていく先【小学校中学年】

- 1 主題名** 豊かな自然を守るために **内容項目** D 自然愛護
- 2 ねらい** 身近な川の汚れと海洋汚染とのつながりから、環境保全の重要性について考える学習を通して、自然やその中に生きる動植物の大切さを理解し、自分なりにできることを考え、自然を大切にしていこうとする実践意欲を育てる。

3 展開例

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導 入	1 自然との関わりについて考える。 ・川や海などに行ったことはありますか。どんなことを体験しましたか。	・「海に潜って魚を見た。」「新鮮な魚を食べた。」などの発言から、川や海など自然の素晴らしさや私たちの暮らしとのかかわりについて問題意識をもたせる。
展 開	2 教材「流れていく先」を聞き、話し合う。 (1)友達と葉っぱのボートレースをしているとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 (2)「ぼく」はお兄ちゃんから海鳥や海の中のプラスチックごみの話を聞いて、どんなことを考えているでしょうか。 (3)「この海、なんとかしたいよな。」というお兄ちゃんの言葉を聞いて、ぼくはどんなことを考えているでしょうか。 3 自己を見つめ、振り返る。 今までの自分の生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書く。	・範読前に初めからP2・5行目までを条件・状況として伝えることも考えられるようにする。 ・放課後に友達と自然の中で遊ぶと楽しさや自然と触れ合う気持ちのよさについて、共感的に考えられるようにする。 ・「ぼく」に自我関与させていく中で兄とのやり取りを通して、自然環境が悪化している現状と人間との関わりについて考えを深められるようにする。 ・環境保全に関心を持ち、身近なところから自分なりにできることを実践しようとする思いを考えられるようにする。 ・「ぼく」（児童）と兄（教師）の役割演技を行うことで主題にせまることも考えられる。 ・自然を大切にできた経験を振り返ったり、本時の学習から考えたりしたことが書けるようにする。 ・補助教材（社会の教科書や動画等）を使い、環境に対する意識を高めることも考えられる。
終 末	4 教師の説話を聞く。 地球上にある、生活に使える水の量について話をする。	・児童から出た考え方や言葉を用いながらねらいに関わる説話をすることで、価値に対する印象を深めさせる。

4 教材作成の意図と取扱いの留意点

海洋プラスチックごみによる海や生物への影響は非常に大きく、漁業や観光業など、産業にも被害が出ている。埼玉県に住む多くの児童にとって、「海」は、観光・レジャーで訪れる“きれいな場所”“楽しい場所”であり、海洋汚染問題を、生活と結び付けて考えられる児童は少ない。教材作成にあたっては、豊富な河川を有する埼玉県の特色や、4年生の社会科の「飲料水を供給する事業」「廃棄物を処理する事業」の学習との関連を考慮し、川と海のとつながりから海洋汚染問題について考えられるようにした。

本教材を取り扱う上で重視したいことは、「ポイ捨てをしない。」に留まらず、プラスチックごみを減らしていかなければならない社会の中で、なぜプラスチックは流してはいけないのか、その理由を考えたり、自然や生物の立場に立って、自分事として自分たちに何ができるかを考えさせたりすることも大切である。また、私たちが海から得ている恩恵の大きさやSDGs（持続可能な開発目標）等にも触れながら、海洋生物を大切にすることが自分たちの命を守ることにもつながっていることにも気付かせたい。